

5月27日（月）パンドラの箱

「パンドラの箱」という話があります。まだ、人間が苦しみや悲しみ、怒りなどを知らなかった頃、プロメテウスという巨人が神様だけが持っていた火を、こっそり人間に分けました。それを



知った神の王のゼウスは怒りました。火を盗んだ人間に、罰として「絶対に開けてはならない」という箱を、パンドラという女性に持たせて、人間の世界に送りました。これがパンドラの箱です。

ある日、パンドラは、我慢ができずに、箱のふたを開けてしまいます。すると、箱の中から「病気」や「痛み」「怒り」「憎しみ」「不満」「災い」などが吹き出して、人間を苦しめるようになりました。

しばらくしてからパンドラがまた、箱のふたを開けてみると底の方に何かが残っていました。それは「希望」でした。パンドラは、苦しんでいた人間たちに「希望」を放った、という話です。希望があるから、私たちは生きていけるということだと思えます。

村越 新